

第126回 仏教公開講座

年間テーマ

生きるって ということ

サブテーマ (教区テーマ)

まなこ
『眼をひらく 心
こころ
をひらく』

真宗大谷派岐阜教区・岐阜別院

日 時	2014年12月20日(土) 午後2時~4時	
講 師	栗田 暢之 氏(岐阜教区仁成寺住職)	
講 題	「被災者と向き合うとは ~阪神・淡路大震災から20年~」	
日 程	午後2時00分	真宗宗歌・正信偈(同朋奉讃式)
	2時15分	講 義
	3時45分	質問の時間
	4時00分	恩徳讃・閉会



講師紹介

栗田 暢之 (くりた のぶゆき)
岐阜教区第11組仁成寺住職
レスキューストックヤード代表理事
東日本大震災支援全国ネットワーク共同代表世話人

先生からのメッセージ

「ボランティア元年」と言われた1995年阪神・淡路大震災から20年を迎えようとしています。当時からボランティアは聖道門か浄土門かが問われましたが、あの東日本大震災を経た今もなお、その問いに関する明確な答えは「わかりません」。ただ、私の目の前には、筆舌し難い苦悩を背負った被災者がいました。その事実を振り返らせていただきます。

いつでも・どこからでも聞ける「テレホン法話」お電話ください。TEL058-265-0033